

このみは下に掲載

☑のち
☐一時・時々

数字(上)最高気温
(下)最低気温
丸囲みは降水確率
白又キは50%以上
白は正午の風向き
矢印なしは無風

週間天気

高松		19日(月)	12.5 20	20日(火)	11.4 40	21日(水)	13.5 30	22日(木)	16.5 20	23日(金)	14.8 60
多度津		19日(月)	12.5 20	20日(火)	11.4 40	21日(水)	13.5 30	22日(木)	16.5 20	23日(金)	14.8 60

2 15 18 21 24

あす

☁	☀	☆	☁	☁	13.8 50
☀	☀	☆	☆	☁	13.8 50
☀	☀	☆	☆	☁	13.8 50

医療情報を遠隔地に

四国共通企画 津波が来る ⑤

3.11後の現場から

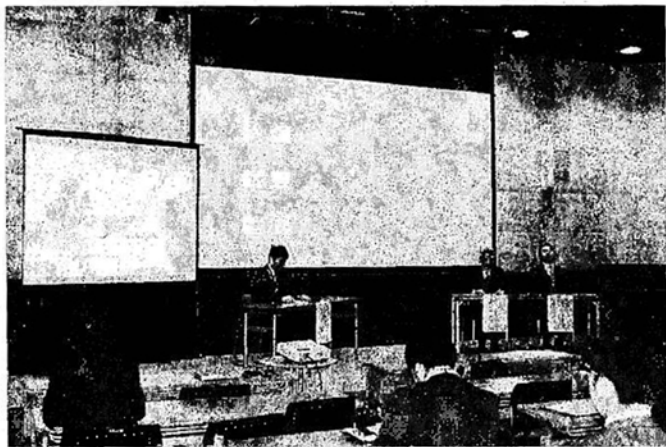
「赤い、丸い、お薬だった……」。昨年5月、宮城県南三陸町の仮設診療所で、医療支援に訪れた高知医療センター(高知市)の澤田努医師(44)は、たどたどしい記憶で服用していた薬のことを説明しようとするお年寄りを前に、事態の深刻さを再認識した。



東日本大震災で津波被害を受けた東北沿岸各地では、患者の電子カルテを記録した病院などのコンピューターサーバーも多くが海水につかり、データが損なわれた。どんな薬をどれだけ処方されていたか分かれれば、患者の病状はある程度推測できるが、その情報は波に奪われた。

しかし、例外的に岩手県陸前高田市では、市役所や地元病院が失った妊婦情報や、一県周産期医療情報ネットワークシステム「ワークシステム」によって残されていた。システムはサーバーが内陸に約90キロ離れた盛岡市にあったからだ。

09年4月に運用が始まった同システムは、同県内の医療機関や約7割の市町村をインターネットで結び、妊婦の健診情報などを共有できる。救急搬送された妊婦の素早い情報確認などに効果を上げていたが、これが妊婦



医療と防災情報をテーマに、盛岡市と結んで開かれたシンポジウム
—高松市内で今月2日

保存の岩手で効果証明

物語ではない。現在、香川県では、高松市の情報通信会社を中心に産学連携で、患者の調剤や検査などの情報を一括管理し、病院や薬局が共有する「香川医薬連携情報共有システム」の開発が進む。また、医療機関同士で患者の画像データなどの診療情報をやり取りできる「かがわ遠隔医療ネットワーク」の運用も03年に始まった。全県的なシステムとしては全国初

の安否確認など震災でも威力を発揮した。残されたデータの提供を受けた陸前高田市は、子ども372人分の母子手帳を再発行し、震災前の妊婦の体重や体調などの情報も手帳に載せることができた。

緊急時にも活用できた。今月2日、医療と防災情報をテーマに、盛岡市と高松市を高速通信で結んで開かれたシンポジウムの高松会場で、澤田医師は、9カ月前に被災地で痛感した思いを訴えた。

「遠隔地のサーバーで医療・介護の基本情報を保存してあれば、

澤田医師の訴えは夢

この企画は、吉田卓矢、馬淵晶子、中村敦茂、篠崎真理子、小坂剛志、倉沢仁志、阿部弘賢、井上卓也が担当

課題。ただ、電子カルテの標準化は進んでおり、ハードルは高くない」と力を込める。

各システムの開発を